

JA 総合営農研究会

第 54 回公開研究会

JA 営農経済事業改革の 新戦略をさぐる Part2

2020 年

2月7日(金) 13:00~18:00

会場 JAビル 36 階大会議室

2月8日(土) 9:00~12:00

会場 JAビル 32 階 3202・3203 会議室

営農経済事業改革とリスク管理、新たな事業展開

開催趣旨

営農経済事業の改革・革新および収支均衡の実現は、JA 自己改革の中心的な課題であり、同時に、我が国の経済・社会をめぐる諸環境が大きく変化するなか、緊喫の課題でもある。

JA の経営基盤の一つである金融事業は、農林中金からの JA への配当利率が段階的に引き下げられ、部門収支の悪化が予想される。また、金融緩和とマイナス金利により、メガバンクをはじめ各銀行において大規模な合理化と再編が進展している。農林中金を頂点とする JA バンクも例外ではない。以上の状況のもとで、営農経済事業改革や収支改善を通じて、JA の新たな経営基盤と新事業戦略の構築が求められている。とはいえ、経営収支改善のために、合理化・リストラのみに終始するならば、JA の存在そのものを否定することになる。

営農経済事業改革は、本研究会の目的であり、設立以来、様々な視点から追求し、多くの JA において改革を実現してきた。これまでの研究会および JA での実践の蓄積を踏まえ、新たな時代に適応した営農経済事業改革と収支均衡を実現する戦略を構築することが必要である。

今回の公開研究会は、前回（2019 年 11 月）に引き続き、営農経済事業の収支均衡を目指した JA の新事業戦略を検討する。とくに、販売事業、購買事業、営農指導等を改革するうえでのリスクとその対策に重点を置く。そのうえで、営農経済事業の改善を通じて収支均衡を実現している JA の具体例から改革のヒントを確認する。また、営農経済事業の柱が多くの JA では赤字であり、運営等が課題となっている集出荷施設やカントリエレベーター等について、その現状と課題を検討する。さらに、担い手の支援やブランド・マーケティングのための新規事業についても、事例報告とともに課題を整理する。

報告に基づく議論では、営農経済事業改革とリスク管理、新たな事業展開について参加者とともに共有できることを期待する。

発表者のご紹介

（文責＝JA 総合営農研究会事務局）

▶ JA 実践事例①～千葉・JA 富里市

生産組織育成による共販強化、需要・消費の変化に対応した直販型の販路開拓、販売組織と一体となった予約共同購買など独特の取り組みで、農業部門収支を黒字化

▶ JA 実践事例②～長野・JA みなみ信州

ブランドの「市田柿」を中心とした直販型の事業展開で販売高を伸ばす。資材店舗やライスセンターの再編による収支改善の取り組み状況も報告

▶ 営農経済事業改革におけるリスクとその対策

◎ JA 総合営農研究会副代表委員 仲野隆三

組合員と役職員の意識と意志が一つでなければ営農経済事業改革はできない。組合員が選択できる多様な販路を開拓しつつ、事業リスク・コストを共有することがカギとなる

▶ 営農経済事業、いま何が課題か

◎ JA 総合営農研究会副代表委員 黒澤賢治

協同活動にもとづく販売・購買事業収支改善の方途を提起した前回（2019年11月）の報告に続き、指導・直売・利用・加工事業も含めた営農経済事業の根本課題を整理

▶ 青果物の共同利用施設の再編

◎ 農林中金総合研究所 尾高恵美

JA 営農経済事業の拠点として重要な選果場等だが、老朽化や稼働率低下により機械更新とコストが課題。施設再編の先進事例から、課題克服のポイントを探る

主催

JA 総合営農研究会

（旧 JA-IT 研究会）

事務局

- 全国農業協同組合中央会（JA 全中） 営農・くらし支援部営農担い手支援課内
- 全国農業協同組合連合会（JA 全農） 耕種総合対策部統括課内
- 一般社団法人農山漁村文化協会（農文協） 企画政策室内

〒107-8668 東京都港区赤坂 7-6-1 TEL:03-3585-5211

1日目

2/7 (金)

会場：JAビル 36 階大会議室

- 13:00~13:10 開会挨拶
- 13:10~14:10 報告①「農業部門の収支均衡」実現 JA の実践例から
 - ◆JA 総合営農研究会副代表委員 仲野隆三 (元 JA 富里市常務理事)
- 14:20~15:20 報告②「市田柿」を核にした直販型事業展開と収支構造改革
 - ◆JA みなみ信州 営農部長兼担い手支援室長 塩澤 昇
- 15:30~16:30 課題提起①営農経済事業改革におけるリスクとその対策
 - ◆JA 総合営農研究会副代表委員 仲野隆三
- 16:40~17:40 質疑・討論
- 18:00~20:00 交流懇親会 (別会場にて)

2日目

2/8 (土)

会場：JAビル 32 階 3202・3203 会議室

- 9:00~10:00 課題提起②営農経済事業、いま何が課題か
 - ◆JA 総合営農研究会副代表委員 黒澤賢治
- 10:10~11:10 報告③青果物の共同利用施設の再編
 - ◆農林中金総合研究所 主席研究員 尾高恵美
- 11:10~11:50 質疑・討論
- 11:50~12:00 閉会挨拶

参加費

会員：12,000円 (交流懇親会費込み)
 正会員・生産法人会員・団体特別会員で2人目以降は9,000円
 非会員：17,000円 (交流懇親会費込み)
 ※事前にお振り込み (振り込み先は別途お知らせします)、
 または当日会場にて現金でお支払いください。
 ※参加費に宿泊費は含まれていません。宿泊は各自でご手配ください。

JA総合営農研究会に入会し、
実践交流しませんか？

☆ 入会案内パンフレット (入会申込書付) がございますので、お問い合わせ・ご請求ください。
 TEL: 03-3585-5211 (農文協 担当: 嶋川)

★ 年会費
 正会員 20,000円
 *単位農協 (県1JAについては地区事業本部等)
 生産法人会員 5,000円 *集落営農、農業生産法人
 特別会員 団体 50,000円 個人 5,000円



JA総合営農研究会
ホームページ
ja-it.net

次回の公開研究会案内
や過去の報告内容などを
掲載しています

参加お申し込み方法

JA総合営農研究会のホームページ上の参加申し込みフォームからお申し込みいただけます。

JA 総合営農研究会

検索



申し込み締切 2020年1月31日 (金)
 ※締切日を過ぎてのお申し込みは、事務局宛ご相談ください。
 問い合わせ先：JA総合営農研究会事務局

(一社) 農文協 企画政策室内 TEL: 03-3585-5211

E-mail: info@ja-it.net

会場

JAビル 36階大会議室 (1日目)、3202・3203会議室 (2日目)
 東京都千代田区大手町1-3-1
 地下鉄「大手町」駅 (地下1階にてC2b出口が直結)
 東西線「竹橋」駅 (4出口から徒歩3分)
 JR「東京」駅 (丸の内出口から徒歩15分)



※JA総合営農研究会 JA営農経済事業の改革と地域農業の活性化に向け、全国のJA役職員が課題を共有しながら先駆的事例を双方向に学びあう実践的な研究会。2001年に「JA-IT研究会」として設立。約50のJAを正会員とし、年3回の「公開研究会」と年1回の「人材養成セミナー」などを中心に活動する。2019年6月に「JA総合営農研究会」と改称した。